

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：32809

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10725

研究課題名（和文）社会人経験看護師の強みを活かし職場適応を支援する卒前・卒後研修プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of Pre- and Post-graduate Training Programs to Support Workplace Adjustment by Utilizing the Strengths of Nurses with Work Experience

研究代表者

宮本 千津子（Miyamoto, Chizuko）

東京医療保健大学・千葉看護学部・教授

研究者番号：50209946

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：社会人経験をもつ看護師および社会人経験新人看護師の指導経験をもつ看護師へのインタビュー調査ならびに文献検討より、社会人経験看護師の、職場適応に影響する経験と自分なりの対応、これらや前職との比較を通じた現場看護・支援体制の捉え方と、期待する支援を明らかにできた。また、指導者の社会人経験看護師の特徴の捉え方とそれに対する支援の工夫について明らかにできた。さらに、社会人経験看護師に関する文献検索の結果、社会人経験看護師自身および支援者のいずれもが職場適応において困難を抱えているが、これを支援する具体的な方法は提案にとどまり、課題として残されていることを整理することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、社会人経験看護師の職場適応を「改めでの職業的社会的化」の視点から探索することで、先行研究によって示された本研究の前提とした推定を裏付けるとともに、新たな様相を提示することができた。また、社会人経験看護師の職場適応を促進する研修プログラムや具体的な支援方法を示唆することができ、看護における多様な人材の活用促進に貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）：Through interviews with nurses with work experience and nurses who have supervised new nurses with work experience and a review of the literature, we were able to clarify how nurses with work experience perceive the on-site nursing and support system and the support they expect by comparing their experiences that affect their adjustment to the workplace and their own responses to these experiences and to their previous jobs. In addition, we were able to clarify how the supervisors perceive the characteristics of nurses with work experience and how they devise support for them. Furthermore, as a result of the literature search on nurses with work experience, it was found that both the nurses themselves and their supporters have difficulties in adjusting to the workplace, but concrete methods to support them are only proposed and remain as an issue.

研究分野：基礎看護学関連

キーワード：社会人経験看護師 職業的社会的化 職場適応 人材活用 人材育成

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、職業選択の多様化、経済成長の鈍化による資格志向等により、看護職以外の異業種での就業経験をもつ者、いわゆる社会人経験者が看護職へと転向する事例が増加している。しかし、就職後に職場になじめず離職・転職する社会人経験新人看護師が少なくないことが問題として認識されるようになった(佐藤ら, 2011; 森山ら, 2018)。そのため、社会人経験新人看護師の職場適応を阻む因子や、新人看護師の指導者が感じる困難等が探索され、指導体制の工夫や研修等の離職防止対策がそれぞれの施設で模索されている(濱ら, 2017; 高橋ら, 2015)。しかし、必ずしも成果をあげているとはいえず、その理由として、社会人経験新人看護師のもつストレート新人看護師とは異なる特徴について、問題点のみが注目されて探索され、社会人経験者ならではの「強み」が明らかにされていないこと、それにより社会人経験新人看護師および指導者・管理者に対する職場適応の促進に資する研修等となっていないことが考えられる。

一方、新人看護師の職場適応を考える際には、職業的社会化を促す視点からの支援が有効である。職業的社会化と職業転向との関係については、最初に就業した職業・職場での経験が転向したのちにも基盤となって影響するといわれており、社会人経験新人看護師には看護にはなじまない前職での就業価値観があることが示唆されている(太田ら, 2019)。この点から社会人経験新人看護師にとっての職業的社会化はストレート新人看護師のそれとは異なり、改めて行うという課題を含有するものとしてとらえる必要がある。

さらに、先行研究では、社会人経験看護師には前職から得た「強み」があり、自身も社会人経験をもつ指導者はこれを活かし効果的な支援を行っているが、指導者自身がストレート看護師であるような場合にはそれが認識されず、むしろ問題点が注目されがちである状況があることが明らかとなっている(太田ら, 2019)。

以上より、社会人経験新人看護師の定着に向けて職場適応を促進するような有効な研修・支援を検討することは重要といえるが、職業的社会化のプロセスに着目した職場適応を支援するための看護師学校卒業前と就職後における研修プログラムは報告されていない。

2. 研究の目的

本研究では、社会人経験看護師が、看護という職業において改めて職業的社会化をしていくプロセスとその影響要因を明らかにし、職場適応を支援するための看護師学校卒業前と就職後における研修プログラムを開発することを目的とした。

3. 研究の方法

1) 社会人経験のある看護師(以下、社会人経験看護師)に関する研究について文献レビューを行い、先行研究の動向を分析した。医中誌 Web にて、「看護師」「社会人」のキーワードで「会議録を除く」とし、2014年から2023年の10年間の文献を検索した。

2) 社会人経験看護師、および社会人経験看護師を指導した経験のある看護師を対象に、社会人経験新人看護師の職業的社会化のプロセスと、異業種経験に伴う「強み」等の影響要因に関するインタビュー調査を行い分析した。

対象は縁故法によりリクルートし、関東県内の20か所の病院において、社会人経験看護師および指導経験者をそれぞれ10名程度とした。

3) 上記分析ののち、新たな研修プログラムの内容と評価指標を検討し、病院等管理者との意見交換を行い修正し、社会人経験をもつ看護学生を対象とした研修および同対象の就職後のフォローアップ調査を実施する計画であったが、2020年からのCOVID-19拡大に伴う調査実施困難と、研究者所属施設での教育調整対応により、計画を修正し、実施しないこととした。

4. 研究成果

1) 文献検討

医中誌 Web にて、「看護師」「社会人」のキーワードで「会議録を除く」とし、2014 年から 2023 年の 10 年間の文献を検索し、「看護師」and「社会人」で 252 件が抽出された。商業誌 87 件を除き、タイトルやアブストラクトなどから内容を確認し、最終的に 23 件の文献を対象とした。

対象とした 23 件の文献は、社会人経験看護師の就業継続に関する文献が 19 件と最も多く、その他には、異業種から看護師へのキャリアチェンジのプロセスに関する文献が 2 件、部署の管理者がとらえる社会人経験看護師の特徴に関する文献が 2 件であった。

社会人経験看護師の就業継続に関する文献の具体的な内容には、職場適応における課題やその対処、支援に関する内容であった。

森山ら(2018)によると、社会人経験看護師は、職場に適応する過程の中で、「同期との間に生じた到達状況の差や看護師間での暗黙のルール、これまで経験してきた職場環境との違いゆえの戸惑いなど【職場順応に向けた葛藤】」を感じていた。また、滝島ら(2019)によると、病棟師長も、社会人経験のある看護師を「多重課題が難しい」「関係が築けない」などと捉え、職場への適応困難を示していた。社会人経験看護師への支援については、部署の管理者や教育担当者は、社会人経験による個人の強みを活かす支援をしている(萩原ら, 2019; 太田ら, 2020)と語っていた。しかし、筒井ら(2021)によると、社会人経験看護師が師長や先輩に求めていた支援では、「私を持っていない専門的な知識とスキルを提供する」「私の仕事に関するアドバイスを提供する」といった新人看護師として仕事になれるために必要な項目が挙げられており、社会人経験看護師が職場適応できる支援が求められていることが推察された。

2) 社会人経験看護師の職場適応の過程と職場適応に影響を与える要因

(1) 調査目的

社会人経験新人看護師の職場適応の過程と職場適応に影響を与えた要因を明らかにする。

(2) 方法

対象：関東県内の病院に勤務し看護部責任者および本人ともに研究協力に同意が得られた 3~6 年の看護師経験をもつ社会人経験看護師 8 名

研究期間：2023 年 1 月~2024 年 3 月

データ収集方法と内容：社会人看護師の職場適応とこれに影響を与える内容(前職の仕事内容、看護職に転職した理由、前職と看護職の労働条件や業務、育成支援の違い、今後の職業継続意思等)について、約 60 分の半構造化面接により収集した。

分析方法：逐語録を熟読し意味のまとまりに注目したコーディングを行い、職場適応の状態や影響要因を視点としてカテゴライズした。

倫理的配慮：所属施設のヒトに関する研究倫理委員会により承認を得て実施した。

(3) 結果

対象の年齢は 32~57 才、前職の種類は自営業、介護職等、ほぼ全員が異なっていた。看護師経験年数は平均 4.2 年で、全員が今後も看護師を続けていく意思があった。以下、【 】はカテゴリーを示す。

対象は就職後から【前職での経験を承認される】【非社会人経験看護師と異なる対応をされる】【若い同期・同級生の行動を気にする】【前職のキャリアが活かせない】等の経験をし、これに対し【上司・先輩・同期に相談する】【先輩の実践方法を模倣する】【自分の能力範囲で考え行動する】【何も言わず状況を受け入れる】等の対応を行っていた。

また、これらの対象は看護を【人の命と生活を看ることからくる難しさがある】【患者の

尊厳より効率が優先される】【業務の分担者として担う責務が多様で大きい】【前職と異なる独特な労働条件がある】【教育体制が長期的で充実している】等と見ており、期待する支援として【ほかの新卒と区別しない関わり】【社会人経験の特性を考慮した支援】【孤独を感じずに済む環境の準備】【納得できる指導】等をあげていた。

(4) 考察

対象からは前職での経験をもつからこそ、かつ看護の独自性に起因する経験や対応、看護の見方があることが明らかになり、職場適応を促すための示唆を得ることができた。

3) 社会人経験を有する新人看護師の職場適応を促進する指導者の関わり

(1) 調査目的

ある職業に就いたのちに看護職へと転向した社会人経験を持つ新人看護師(以下、社会人経験新人看護師)が職場に適応できず離職に至りやすいとの指摘がある中で、社会人経験新人看護師への指導・管理的支援を明らかにし、効果的な看護指導者の指導・支援方法への示唆を得る。

(2) 方法

対象：関東県内の病院に勤務し、看護部責任者および本人から同意が得られた社会人経験新人看護師を直接指導した経験を持つ看護師 5 名

研究期間：2023 年 7 月～2024 年 2 月

データ収集方法と内容：約 60 分の半構造化面接を実施した。面接内容は、社会人経験を持たないストレート新人看護師との相違点、社会人経験新人看護師の職場適応状況、社会人経験新人看護師支援における困難や工夫、周囲からの支援内容などである。

分析方法：逐語録を繰り返し読み、質問項目ごとに意味のまとまりに注目したコーディングを行い、内容の類似性及び相違性によって分類し、カテゴリー名をつけた。

倫理的配慮：所属施設のヒトに関する研究倫理委員会の承認を得て実施した。

(3) 結果

対象の年代は 20 代 2 名、30 代 2 名、40 代 1 名で、看護師経験年数は 4～20 年であった。これまでに担当した社会人経験新人看護師数は 4 名が 1～2 名で、1 名は組織の教育的役割を担う立場として約 20 名の社会人経験新人看護師に関わっていた。以下、【 】はカテゴリーを示す。

対象は社会人経験看護師を【社会人基礎力を強みとしてもつ】【患者ケアに活かせる強みをもつ】【業務遂行に活かせる強みをもつ】【自己評価に基づく計画性と主体性がある】【看護の仕事に対し独自の価値観を姿勢としてもつ】【同期が親しいとは限らない】【主体性や経験が指導への手応えに影響する】とみており、【時間外労働の多さ】【人間関係の構築】【同期との世代間ギャップ】【思うようにできない自分】に戸惑っていたと捉えていた。指導の工夫として【指導の理由や意図を説明する】【社会人経験新人看護師が遭遇する困難を見越して対策をとる】【課題の解決に適した人の協力を得る】【積極的に関わり相手を知ろうとする】【年上に対し、礼儀を意識して関わる】【看護師の新人として他の新卒と同じように対応する】、チームの支援として【指導者との組み合わせを考慮する】【指導を専門とする役割をおく】【役割分担しながらみんなで関わる】【部署スタッフ間で情報を共有する】【管理者・新人・指導者で話す機会がある】【教育担当師長が関わる】ことを行っていた。

(4) 考察

指導者は社会人経験新人看護師について、人生経験を含めた看護教育以外の基盤を持つ人材であるとともに、それゆえに戸惑いをもつと捉えていたが、これらは指導の入りにくさ

や職場になじめない要因にもなりうると思う。これに対し、指導者は社会人経験新人看護師の特性を踏まえ、部署スタッフや管理者、組織の教育担当者と情報共有や役割分担をしながら関わっており、これらは職場適応を促進する支援となると思われた。

4) 総括および研究の限界

本研究は、社会人経験をもつ新人看護師が職場適応できず離職に至りやすい現状に対し、看護師としての就業が「改めての職業的社会化」である点に着目した調査を行い、職場適応を促進する研修プログラムの開発を目的とした。方法として、社会人経験看護師およびその指導経験をもち看護師へのインタビュー調査と、文献検討を実施した。

その結果、文献検討からは、当該看護師と指導者のいずれもが職場適応において困難を抱えているが、具体的な支援方法は提言されていないことが整理された。また、インタビューからは、社会人経験看護師の職場適応に影響する経験と自分なりの対応、前職との比較を通じた現場看護・支援体制の捉え方と期待する支援が、また指導者については社会人経験看護師の特徴の捉え方と支援の工夫について明らかにできた。これらから、当該新人看護師の職場適応を促進する指導者等による支援と、当該新人看護師自身が改めての職業的社会化をはかるための支援を提言した。

本研究は covid-19 拡大への対応により、研修プログラムについては提言にとどまった。実証的な検討へと発展させることが課題である。

<引用文献>

1. 太田勝子, 宮本千津子: 社会人経験を持つ新人看護師の特徴と強みを活かす支援. 東京医療保健大学紀要; 2020; 14 (1); 5-12
2. 荻原香瑞誉, 渡辺みどり: 社会人経験を有する新人看護師の職場適応を促す看護師長の支援. 日本看護福祉学会誌; 2019; 24 (2); 273-288
3. 佐藤尚美: 社会人経験のあるプリセプティを担当するプリセプターの悩み. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録; 2011; 36; 138-145
4. 高橋喜代子, 川畑貴美子, 山口乃生子: 病床規模別にみた社会人経験のある新人看護師に対する支援の実態 看護管理者への調査から. 日本看護学会論文集看護管理; 2015; 45; 55-58
5. 滝島紀子, 大園菜穂子: 社会人経験のある新人看護師の特徴 病棟師長の視点から. 川崎市立看護短期大学紀要; 2019; 24 (1); 39-48
6. 筒井佳澄, 關戸啓子: 看護師以外の社会人経験を有する新人看護師が職場において受けた支援と求めていた支援 近畿圏内の病院で勤務する 2~4 年目の看護師への調査(Support received and sought in the workplace by new nurses with work experience)(英語). インターナショナル Nursing Care Research; 2021; 20 (1); 23-33
7. 濱徹, 高井ゆかり, 五十嵐歩, 野口麻衣子, 山花令子, 他: 社会人経験看護師の臨床実践と主観的職務関連負担感、職務満足度に関する横断調査 社会人経験のない看護師との比較. 木村看護教育振興財団看護研究集録; 2017; 24 号; 58-66
8. 森山彰子, 安田潔史, 岡安誠子: 入職後 5 ヶ月を経過した社会人経験のある新人看護師の困難 社会人経験の影響に着目して. 日本看護学会論文集看護管理; 2018; 48; 229-232

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 宮本 千津子
2. 発表標題 社会人経験看護師の職場適応とその支援に関する研究
3. 学会等名 日本看護管理学会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	末永 由理 (Suenaga Yuri) (10279838)	東京医療保健大学・医療保健学部・教授 (32809)	
研究分担者	安藤 瑞穂 (Ando Mizuho) (40434435)	東京医療保健大学・千葉看護学部・准教授 (32809)	
研究分担者	大西 淳子 (Onishi Junko) (50719276)	東京医療保健大学・千葉看護学部・講師 (32809)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------